

フィッション・トラックニュースレターの別刷り作成に関して

フィッション・トラックニュースレター編集委員会

フィッション・トラックニュースレター (FTNL) の掲載論文の別刷りについては、これまで明確な規定はありませんでした。具体的な取り扱い方法の決定は、各号の編集担当者の裁量に任せられています。最近の一般的な運営例では、編集担当がとりまとめたうえで、別刷り希望者が印刷業者から、別刷りを実費で直接購入するという形態をとる場合が一般的です。

ただし「筆頭著者が学生の場合は、別刷50部を研究会負担で作る」ことが、慣習として約10年間行われてきました。これは、研究会の財政に余裕がある範囲で、学部学生・大学院生を支援しようという意図のもとに、申し合わせ事項として引き継がれているものですが、毎総会時に会計状況の検討と共に研究会会員の了解の上で認められている措置です。

この数年来、学術出版物の多くは、バックナンバーをネット上にアーカイブするようになりました。著者の了解が得られたものに限定はされますが、FTNL のバックナンバーも、フィッション・トラック研究会の HP (<http://www.soc.nii.ac.jp/ftngj>) から、会員・非会員に関わらず自由に PDF ファイルがダウンロードできます。これにより FTNL に掲載された研究成果を、広く知ってもらうチャンスが格段に大きくなりました。

前記のように、FTNL 掲載論文の別刷りについては、これまで明確な規定がなかったため、具体的な取り扱い方法については、各号の編集担当者の裁量に任せられてきました。FTNL の編集におきまして、編集担当者には、原稿のとりまとめ、各原稿の検討および査読作業の調整、レイアウトの作成、印刷業者との連絡・交渉など、かなりの用務が集中します。そのような状況で、FTNL 第 15 号 (2002 年発行) におきまして、当時の編集委員長および編集委員の協議の結果として、その号の掲載分について別刷り作成の仲介をやめることとしました。編集担当における用務軽減が最大の理由でしたが、研究会 HP での掲載論文ダウンロード開始により、研究成果の伝達媒体としての別刷りの役割が相対的に小さくなったのではないかとすることも考慮されました。

「編集担当でとりまとめて、希望者には別刷りを作成する」というのは、明文化された規定ではありませんでしたが、数年間以上にわたって継続してきた慣例でした。原稿募集開始時点で告知できればよかったのですが、別刷り作成の仲介をしないという方針は、原稿募集開始後に決定したため、十分な周知を得られたとは言えないような状況でした。結果として、当該号の投稿者に混乱と迷惑をおかけすることとなってしまいました。なお FTNL 第 16 号 (2003 年発行)、第 17 号 (2004 年発行)、そして第 18 号 (2005 年発行、本号)におきましては、FTNL 第 14 号までと同様に、掲載物の別刷り作成の仲介を編集担当者が行っております。

このたび FTNL 第 15 号の掲載論文著者から、この問題について、今後も同様の混乱などを引き起こさないようにするために、ちゃんとした規定を設けるべきであるという提言をいただきました。この提言をいただいた折りに、当時の編集委員会の措置が、御迷惑と混乱を引き起こしていたことを、改めて認識いたしました。編集委員会として、当該投稿者に改めてお詫びいたします。また、この問題につきまして次回の研究会総会において議論したいと思っております。